



請 認

特 許 願

昭和50年10月6日

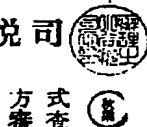
特許庁長官 斎藤英雄殿



1. 発明の名称
包装用容器
2. 発明者
フリガナ 大阪市南区高津町7番丁24
氏名 株式会社アドセブン内
佐々木 英 人

3. 特許出願人
フリガナ 大阪市南区高津町7番丁24
氏名 株式会社 アドセブン
代表者 佐々木 澄

4. 代理人
住 所 〒550 大阪市西区阿波座通1丁目27番地
新松岡ビル
大阪府西区阿波座通1丁目24番地
特松ビル
氏 名 (6782) 弁理士 小谷悦司
50 120889



明 細 書

1. 発明の名称
包装用容器

2. 特許請求の範囲
容器本体と蓋とを一体に折曲げ加工で形成した包装用容器において、蓋の開放側の端部に、蓋の先端の折曲辺部の一部を切り起こして側方へ突出せしめた蓋開放用の舌片を設けて成る包装用容器。

3. 発明の詳細な説明
本発明は、容器本体と蓋とを折曲げ加工で一体に形成したタイプの包装用容器の改良に関するものである。

この種の包装用容器、すなわち厚紙等の素材を折曲げ加工することにより、直方体状の容器本体とその一面につらなる開閉自在な蓋とを一体に形成し、この蓋の先端の折曲辺部を容器本体の前面部分の内側にはめ込んだ状態で蓋閉されるようにした容器は、化粧品、くすり、その他各種品物の包装用容器として広く用いられているが、従来におけるこの種の包装用容器は、蓋を開く場合、容

(1)

① 日本国特許庁 公開特許公報

- ①特開昭 52-45468
④公開日 昭52.(1977) 4. 9
②特願昭 50-120889
②出願日 昭50.(1975) 10. 6
審査請求 有 (全3頁)

庁内整理番号

6656 38
6656 38

⑤日本分類

132 C02
132 C22

⑤Int. Cl²

B65D 5/08
B65D 5/32

識別
記号

器本体にはめこまれた蓋の折曲辺部と容器本体の側面部分との隙間に爪や指先をさし込むなどして開放操作しなければならないので、蓋の開放操作が非常に面倒であると共に、頻繁に開閉されると、上記の如き操作が繰り返し加えられることによって蓋や容器本体における開放部付近が他の部分に比べて特に損傷し易いという欠点があった。

本発明は上記の事情に鑑み、この種の包装用容器における蓋の開放部分の構造を改良することにより、蓋の開放操作を極めて容易にし、かつ、頻繁に蓋を開閉しても蓋および容器本体を損傷することのない包装用容器を提供せんとするものである。その構成は次の通りである。

本発明は、容器本体と蓋とを一体に折曲げ加工で形成した包装用容器において、蓋の開放側の端部に、蓋の先端の折曲辺部の一部を切り起こして側方へ突出せしめた蓋開放用の舌片を設けて成る包装用容器である。

以下、本発明の実施例を図面に依拠して詳説すると、1は容器本体、2は蓋で、両者は厚紙等の

(2)

素材にて折曲げ加工で一体に成形されており、上記蓋 2 の開放端部には、側方へ突出せる蓋開放用の舌片 3 を設けてある。つまり、このような容器は、厚紙等の素材を予め容器を展開した形状に成形し、これをトムソン加工で所定形状に折曲げて必要箇所を接着せしめることにより、直方体状の容器本体 1 の一側面部に開閉自在な蓋 2 が達成され、かつ、同蓋 2 の先端部分に蓋閉時に容器本体 1 の上端内側部にはめ込まれる折曲辺部 4 を備えた構造に形成されるわけであるが、さらに、上記蓋 2 の開放端側に、上記折曲辺部 4 の巾方向中央部を側方へ向けて切り起こした形の蓋開放用舌片 3 を設けて本発明の包装用容器を構成している。この舌片 3 は、構造的には上述の如く蓋 2 の先端の折曲辺部 4 の一部を切り起こした形のものであるが、製作上は、通常、蓋 2 の先端部分を折曲げて上記折曲辺部 4 を形成する際に、蓋 2 の先端近傍所定箇所に、巾方向中央部分を除いて折曲辺部形成用の折り目 5 をつけ、かつ、この巾方向中央部分から先端部側へ U 字状等の切り目 6 を入れ

(3)

る素材の装飾が施された表面があらわれるので、装飾性の点から好ましい。また、このような構造の舌片 3' において、特にその折返し部分が容器本体 4 の上端に当接するような場合には、かかる舌片 3' が蓋 2 の完全な閉鎖の邪魔になることを避けるため、容器本体 1 の上端に上記舌片 3' に対応する切欠き 7 を設けておくことが望ましい。ただし、舌片 3' の折返し部が容器本体の上端に当接しない程度に折返し量を小さくしておけば、上記の如き切欠き 7 を設ける必要はない。

叙上の如く、本発明は、厚紙等の素材を折曲げ加工することによって容器本体と蓋とを一体に成形した包装用容器において、蓋の開放部側の端部に、容器本体へのはめ込み用の折曲辺部の一部を側方へ向けて切り起こした蓋開放用の舌片を設けているため、蓋を閉じた状態において上記舌片が容器本体の外側方へ突出し、この舌片を上方へ押し上げさえすれば極めて簡単に蓋が開かれる。従って、従来のように、蓋の折曲辺部と容器本体との間に指先をさし込むというような操作によって

(5)

ておき、この切り目 6 よりも内側の部分を残して上記折り目 5 から先の辺部 4 を折曲せしめることにより、上記切り目 6 よりも内側の部分が蓋 2 の側方に突出して上記舌片 3 となるように成形される。

しかし、蓋 2 を閉じた状態では、蓋 2 の開放端側において、上記舌片 3 が容器本体 1 の側面上端部よりも外側方に突出した状態となり、蓋 2 を開放する際には、上記舌片 3 を押し上げさえすれば簡単に蓋 2 が開かれる。

なお、本発明の別の実施例として、第 4 図に示す如く、蓋開放用の舌片 3' を、適宜箇所から下面側に折返して二重構造に形成しておいてもよい。この場合も、全体の構成ならびに成形手段は基本的に前記実施例と変わりはなく、ただ蓋開放用の舌片 3' の形成にあたり、予めその突出量を大きくとっておいて適宜箇所から先を折返す。該舌片 3' の折返し箇所は接着してしなくてもよい。このようにすれば、舌片 3' が補強されると共に、舌片 3' の先端および下面側にも、容器を構成す

(4)

蓋を開く場合と比べ、はるかに簡単に、かつ、迅速に蓋を開くことができ、その上、蓋の開放側の端部や容器本体の上端に操作上の無理な力が加わらないので頻りに開閉しても蓋や容器本体を損傷することがない。特に本発明は、厚紙等の素材にて折曲げ加工で簡単に製作される包装用容器を対象として、かかる容器における蓋の一部を利用して切り目を入れる等の簡単な加工で上記舌片を形成しているため、この種の容器の特徴である製作が容易であるという利点を損なわず、しかも従来のこの種には見られない上述せる如き実用性大なる効果を奏するものである。

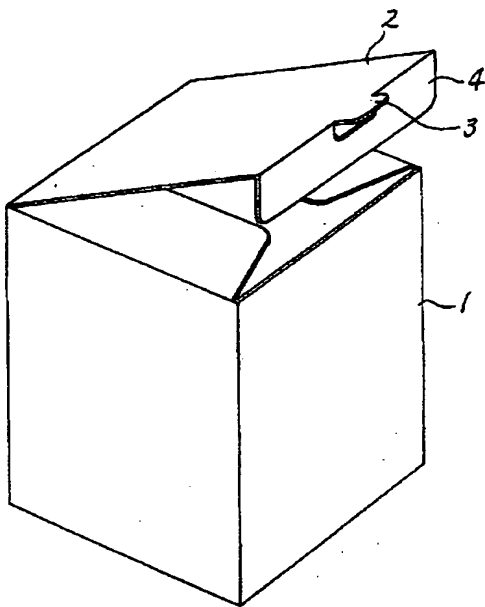
4. 図面の簡単な説明

図は本発明の実施例を示すもので、第 1 図は全体の斜視図、第 2 図は製作過程を示す展開状態の要部の平面図、第 3 図は蓋を閉じた状態の要部縦断面図、第 4 図は別の実施例を示す斜視図である。

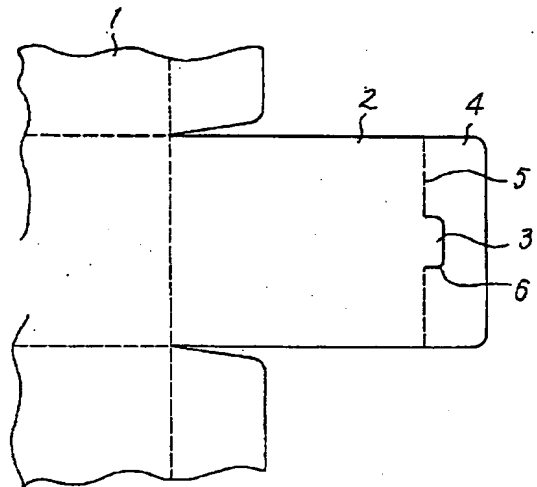
1 - 容器本体、2 - 蓋、3, 3' - 蓋開放用の舌片、4 - 蓋先端の折曲辺部。

(6)

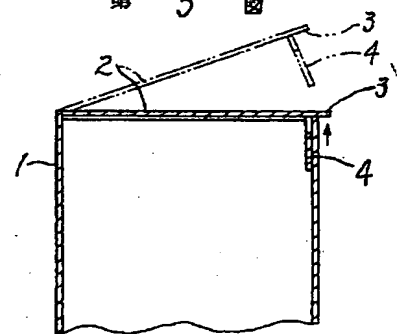
第 1 図



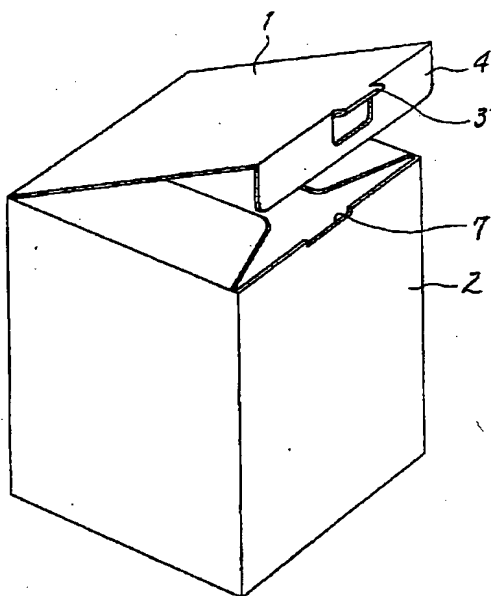
第 2 図



第 3 図



第 4 図



5. 添附書類の目録

(1) 明 細 書	1 通
(2) 図 面	1 通
(3) 願 書 副 本	1 通
(4) 委 任 状	1 通
(5) 出願審査請求書	1 通

THIS PAGE BLANK (USPTO)

THIS PAGE BLANK (USPTO)